

交渉会派から「脱落」

奈良市議会の三橋和史氏(二期)が日本維新の会から離党したのに伴い、市議会派の維新は5日までに、同氏の退会届を議会事務局に提出。昨年夏の市議選で「勢い」を見せた維新だが、会派設立からわずか1年で議会の交渉会派(3人以上)の座から滑り落ちた。会派の幹事長を務めた三浦教次氏(県総支部副代表)は二期は「離党は予想だにしていなかった」とし、このところの県総支部(清水勉代表代行)の内紛と合わせ「来年の統一地方選、参院選に向け全く影響がないとは言えない」となかなか党の存在感を発揮できない状況に頭を抱えている。

奈良市会の「維新」

三橋氏離党が影響

三橋氏の離党は、党を除名処分となった川田裕県議への対応をめぐる県総支部への不信、不満のほか、このところの県立高校再編問題も一つの引き金となったとみられる。県教委の計画に対し、奈良市議会は先月25日、全会一致で(県議会で)議決の延期と説明を求め、意見書を可決。これに奔走した議員の1人が三橋氏だった。ところが同28日の県議会委員会で「議決の延期と説明を求める請願」が、市選出の同党県議も反対するなどして不採択に。三橋氏は

直後、自身のツイッタ―で同県議を名指しし「市選出の議員として高校の保護者や卒業生など関係者と信頼関係を構築してきた中で、これを裏切る行為であり許せない」などと批判を展開していた。当初、党公認で来春の県議選出馬に意欲を示していた同氏だが「無所属でも出たい」と話しており、同氏存在は維新にとっても脅威となる可能性がある。

三橋氏の退会で市会の維新は三浦氏と大西淳文氏(二期)の2人に。会派解散届は提出されていないが、幹事長会出席や議会運営委員会に委員を選出できる交渉会派ではなくなり、従って、同市会の構成は、自民党奈良市議会9人▽公明党7人▽改革新政会7人▽共産党6人▽新風政和会3人▽無所属7人―に変更。議長選以来続く、会派の離合集散が止まらない状況だ。

三橋氏は「いったんは無所属になるが、いずれかの会派に加わることを前向きに考えている」。一方の三浦氏らは「党本部から維新の名を残すよう言われており、会派存続を探りたい」として議員の取り込みを図るほか、親しい森田一成氏らを頼る形で自民と接近を図るとの見方も強く状況は不透明だ。